



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和6年1月16日

第9号

備える

校長 櫻井 弘

皆様、本年もよろしくお願ひいたします。お正月明けからの一連の災害などで亡くなられた方、ご遺族の皆様、被災されている方々、救助・支援に従事されている皆様にご心からお見舞いを申し上げます。

いつかは大きな地震が来るかもしれないと考えていても、令和能登半島地震のように、まさか元日に起こってしまうとは、普段の日常生活からは想像できないことであったと思います。被災地では道路の寸断により安否不明者の救出も難航していて、寒さの中での避難生活を強いられ、救援物資や給水車も十分にいきわたらない状況が伝えられています。

巨大地震は、日本全国「いつ」「どこで」起こってもおかしくないと言われています。学校でもそのために緊急地震速報や大規模地震を想定した避難訓練を行っています。避難訓練では全生徒（約650人）が校舎から校庭へ避難するのに約4分と素晴らしい結果となっています。

実際に災害に巻き込まれてしまった場合には、やはり、正確で早い情報が頼りになります。

緊急情報に関する防災アプリには、

特務機関NERV防災 Yahoo!防災速報 NHKニュース・防災アプリ

東京都防災アプリ NHKラジオらじる★らじるアプリ 日本防災機構 StackHazardMa

などがあります。この他にも多くのアプリがありますので、信頼性が高く使いやすいものをスマホに入れておくとよいと思います。

始業式でもお話ししましたが、災害時には「デマ」「偽」「フェイク」などと呼ばれる情報も多く出てきます。東日本大震災では次のようなデマがチェーンメールで発信されていました。

「工場勤務の方からの情報。外出に注意して、肌を露出しないようにしてください！石油貯蔵施設の爆発により有害物質が雲などに付着し、雨などといっしょに降るので外出の際は傘かカッパなどを持ち歩き、身体が雨に接触しないようにして下さい！！コピペとかして皆さんに知らせてください！！多くの人に回してください！！」

このような内容をSNS等で見つけたらどうしたらよいでしょう。今回の令和能登半島地震でも、東日本大震災時の津波が押し寄せる映像を使っただけのフェイクニュースや、地震が人工的に引き起こされたものであるという人工地震説などありました。中でも偽の救助要請はとても悪質だと感じました。懸命に救助に当たっている方や、苦しい中救助を待っている方々のことを考えれば、このような行為はあってはならないと思います。

また、羽田空港でも飛行機同士の衝突という大きな事故がありました。報道された映像では旅客機で物凄い火災が起こっていました。しかし、旅客機の扉8か所中の3つ（火元から遠いところ）だけを使い、約18分で乗客、乗務員の計379人が全員無事避難したとのことでした。大事故の中でのこの避難行動は、海外の専門家からも高く評価されているとのこと。これは、パニックに陥らず避難のために協力できたこと、万が一を考えた備え（訓練や判断）があつたことだと思います。

「備えあれば憂いなし」という格言があります。これは、「居安思危（安きにありて危うきを思う）／思則有備（思えばすなわち備えあり）／有備無患（備えあれば憂いなし）」という発想の連続からできているそうです。災害対策に限らず、日常的に先を見通し、できることは何なのか考え、実行できることから取り組んでいきましょう。